2016/7/27 高品質なテレビ会議システムを利用した遠隔授業の実施について
http://home.hiroshimau.ac.jp/kohog/press/h15/0302282.html 1/1
環境問題と化学　－暮らしの中の資源・エネルギー問題を考える－
広島大学　大学院教育学研究科
田　中　春　彦
１．はじめに
　近年、世界的な人口増加、産業の発展、生活水準の向上などにより資源・エネ ルギーの消費
量が飛躍的に増加し、環境汚染は地域にとどまらず地球的規模で進 行している。こうした環境汚
染の問題は、環境保全への配慮の欠如や環境保全対 策の優先順位の低さなどに起因してい
る。その解決法の一つは、いわゆる「持続 可能な社会(環境)」の実現を目指すことである。その
ためには、以下のような条 件が必要である。
（１）環境汚染防止技術の開発と設備投資・人材の育成
（２）政府や国際機関などによる規制強化・国際協力
（３）社会における環境保全の必要性の認識・意識改革：環境教育の重要性
２．環境教育の目的・意義 1)
　＊環境問題の理論的認識から参加・実践へ
　＊「環境リテラシー（Environmental Literacy）」の育成
　＊「持続可能な社会（環境）」を目指した教育の普及
３．地球環境問題の特徴
　地球規模での環境破壊は、広域的で複雑な因果関係を持っており、しかも不可 逆的に徐々に
進行するため原因発生の時代よりも後の世代に深刻な影響が現れや すい。また、環境問題の
多くは化学物質（廃棄物）の環境への排出に起因してい る。
４．省資源・省エネルギーの必要性
　＊４Ｒ（３Ｒ）の実践：Reduce, Recover, Reuse, Recycle 2)
（１）アルミニウム・鉄の利用とリサイクル：アルミ缶・スチール缶のリサイクル 3)
（２）化学カイロの実験とその廃棄物の有効利用 4)
（３）マンガン化合物の回収とリサイクル：触媒としての有効利用 5)
５．参考文献
（１）文部省、環境教育指導資料（中学校・高等学校編）、大蔵省印刷局（1991）
（２）田中春彦編著、環境教育重要用語３００の基礎知識、明治図書（2000）
（３）田中春彦、環境と人にやさしい化学（改訂版）、培風館（2003）
（４）鈴木康通、広島大学大学院教育学研究科修士論文（2003）
（５）田中春彦、第１７回国際化学教育会議会議録、2002年8月6日-10日、北京、p.61